



私は大学3年次の春からアジア関係図書館のアルバイトを始めました。現在は同学年の方や、先輩たちと一緒に働いています。ここで私が担当している仕事を説明致します。

皆さんが想像している図書館のアルバイトといえば、カウンターに座っての貸出・延長・返却、書庫への入庫手続きなど閲覧室での業務が主だと思います。しかしその他にも書庫の本の並びを整える配架規制という仕事や、利用者がより多くの本の情報を検索し、入手できるように、登録されているデータと本に与えられている請求番号が一致しているか、全国の大学図書館等が所蔵する本（図書や雑誌）の検索ができるCiNii Booksに登録されているかなどの確認作業を行っています。

図書館でアルバイトを始めたことで私が学んだことは、図書館の所蔵検索の詳しい方法、閲覧室や書庫にある本の配架場所を覚えることができた等、多々あります。また、本学の図書館には膨大な数の図書が保管されています。皆さんは本学図書館の蔵書数をご存知でしょうか？2013年に56万冊を超えており、今もなお増え続



田村有佳理



けています。私はドイツ文学ゼミに所属しており、図書館を多々訪れるのですが欲しい図書は必ずといっていいほど本学図書館に所蔵されています。その図書がどのように保管・管理されているのかも、図書館でアルバイトをして学んだことの一つです。

私が仕事の中で好きなのは本の表紙に貼られているラベルの張替え作業です。図書館には新しい本ばかりではなく、古い本もたくさん所蔵してあります。表紙に貼られているラベルも年月と共に人の手に触れた分だけ古くなっていきます。そういった古くなったラベルを、本の表紙を傷つけないよう慎重に削り、新しいラベルを貼る…こういった作業を、どんな人が、何人の人たちが、なぜ、この本を読んだんだろう、と考えながら黙々とやっています。

歴史というのは記録されて残っていきませんが、本にもそういった歴史が形こそ見えませんが残っていくと思います。それはたとえば、私が好きであるこのラベルであったり、時々本に挟まれてあるメモ書きであったりするのではないのでしょうか。私は図書館でのアルバイトを通して、より本を身近に、そして大切に思うようになりました。私が新しいラベルを貼った本も、そうやって長い年月をかけて歴史をたくさん残していった欲しいと思います。

たむら ゆかり（ドイツ語学科3年次生）

